



携帯FM番組配信

**10年ぶり「お茶講」復活**  
長野県町林の堀之内地区に江戸時代から伝わる「お茶講」が10年ぶりに復活、25日、住民有志が昔ながらの作法でお茶を回し飲みした。農作物の古いでは野菜の出来が良さそうとの結果がでた。

**前橋市、内部告発に報奨金**  
前橋市は上司や同僚の法令、勤務規定違反を内部告発した職員に報奨金を出す制度を始めた。職員の不祥事が相次いでいるを受けた措置。額は1〜3万円程度となる。全国的にも例がない。

**モスクワのテロ、死者35人に**  
モスクワ郊外のドモジエドボ国際空港で24日起きた爆発による死者は35人に達し、180人が負傷した。自爆テロとみられている。来年の大統領選で再選を目指すメドベージェフ大統領は治安対策での成果が求められる。

**インフル「流行警報」発令**  
NHK経営委員長が辞任  
鹿児島で鳥インフル疑い  
航空機乗降時は携帯OK

**国勢調査速報**

**県人口200万人維持**

**世帯人数2.66は最少**

2010年国勢調査(10月1日現在)で、県人口は200万9170人で、200万の大台を維持していたことが分かった。県が発表した速報値で分かった。05年の前回調査をベースに算出した速報値では昨年8月に200万人を割り込んだが、案外少ない世帯数を補ったことによる。高齢化や出生率低下が背景に、県民世帯は増加傾向で、1世帯当たりの人口は過去最少の2.66となった。

2010年国勢調査速報(10月1日現在)で、県人口は200万9170人で、200万の大台を維持していたことが分かった。県が発表した速報値で分かった。05年の前回調査をベースに算出した速報値では昨年8月に200万人を割り込んだが、案外少ない世帯数を補ったことによる。高齢化や出生率低下が背景に、県民世帯は増加傾向で、1世帯当たりの人口は過去最少の2.66となった。

**県人口の推移(国勢調査)**

年	人口
1985	192,759
90	196,705
95	200,734
2000	202,492
05	202,138
10	200,917

**人口増加率順位**

市町村名	増加率
1 吉岡町	9.6%
2 伊勢崎市	2.3%
3 高崎市	1.8%
4 太田市	1.5%
5 榛東村	1.5%

**人口減少率順位**

市町村名	減少率
1 南牧村	▲17.2%
2 上野村	▲14.9%
3 神流町	▲14.7%
4 下仁田町	▲12.1%
5 片品村	▲10.6%

**春告げる黄金色**

高崎・染料植物園

高崎市寺尾町の市染料植物園でフクジュソウが咲き始め、散策に訪れた人たちに一足早い春を告げている一写真。

園内の散策路わきの傾斜地に植えられており、直径3センチほどの黄金色のかわいらしい花が顔をのぞかせている。

今年は厳しい寒さが続き、例年よりも2週間ほど開花が遅れた。2月中旬ごろまで見ごろは続くという。

**在宅歯科医療を促進**

富岡甘楽歯科医師会「環境整備へ」連携室

富岡甘楽歯科医師会は、在宅医療環境を整えようとして、富岡甘楽歯科医師会とその他の分野の医師や介護福祉士とのパイプ役となり、患者の医療情報の共有化にも取り組む。

連携室の設置は厚生労働省が本年度創設した「在宅歯科医療連携室事業」の一環で、県内での設置は初めて。患者の病状把握に加え、医師や介護福祉士との連携を通じて訪問診療の負担を軽減し、在宅歯科医療を促進するのが目的。県の委託事業として取り組む。

富岡甘楽歯科医師会は在宅療養者の訪問診療を事業化しており、県内の他の歯科医師会に比べて在宅歯科医療のノウハウが充実していたため、連携室の設置が決まった。

連携室は甘楽富岡地域を管内として①在宅歯科医療に関する相談の受け付け②訪問診療を実施する歯科医療機関の紹介③歯科医師への在宅歯科医療機器の貸し出し④医療、介護分野との情報交換—などに取り組む。相談窓口は富岡市の同歯科医師会事務局に置く。

歯科医療環境の充実に向け、県は県内に在宅歯科医療の相談窓口を増やしていく方針。県保健予防課は「今回の連携室をモデルにどういった方向性が良いかを考えたい」としている。

峯岸会長は「在宅歯科医療の存在を知らない在宅療養者もいる。事業を軌道に乗せて、活動を県内に広めていきたい」と話している。

在宅歯科医療を促進 上毛新聞 2011年1月26日(水)

歯科医療機関での受診が困難な要介護者や身体障害者の医療環境を整えようと、富岡甘楽歯科医師会(峯岸博行会長)は「在宅歯科医療連携室」を開設した。訪問診療に関する相談を受け付けるほか、歯科医師とその他の分野の医師や介護福祉士とのパイプ役となり、患者の医療情報の共有化にも取り組む。

連携室の設置は厚生労働省が本年度創設した「在宅歯科医療連携室事業」の一環で、県内での設置は初めて。患者の病状把握に加え、医師や介護福祉士との連携を通じて訪問診療の負担を軽減し、在宅歯科医療を促進するのが目的。県の委託事業として取り組む。

富岡甘楽歯科医師会は在宅療養者の訪問診療を事業化しており、県内の他の歯科医師会に比べて在宅歯科医療のノウハウが充実していたため、連携室の設置が決まった。

連携室は甘楽富岡地域を管内として①在宅歯科医療に関する相談の受け付け②訪問診療を実施する歯科医療機関の紹介③歯科医師への在宅歯科医療機器の貸し出し④医療、介護分野との情報交換—などに取り組む。相談窓口は富岡市の同歯科医師会事務局に置く。

歯科医療環境の充実に向け、県は県内に在宅歯科医療の相談窓口を増やしていく方針。県保健予防課は「今回の連携室をモデルにどういった方向性が良いかを考えたい」としている。

峯岸会長は「在宅歯科医療の存在を知らない在宅療養者もいる。事業を軌道に乗せて、活動を県内に広めていきたい」と話している。